

卓 話

平成 23 年 3 月 15 日

『“能”の雑学』

岐阜中ロータリークラブ 森 益男会員

■「能」の歴史

- 飛鳥～平安 猿楽の発生と田楽
- 南北朝～室町 観阿弥による能の基礎の確立
世阿弥による幽玄の完成と“夢幻能”
- 桃山 信長と「敦盛」
秀吉の能楽の天下統一
- 江戸 徳川幕府と能楽
歴代将軍と能



■「薪能」

本来は固有名詞であり、「春日大社」や「興福寺」の宗教行事として行なわれる薪切り出しの神事に伴う能だけをいった。興福寺南大門跡の芝生などで奉納された金春・観世・宝生・金剛の四座が務めた。建長 7 年（1255 年）以前から既に行なわれていたと考えられる。冬を破って春を呼ぶ薪の能で「花山」から切り出した「聖なる薪」を燃やす儀式で、火を焚くことが神事の一つ、五穀豊穡を祈る年乞い祭りであった。雨天順延のため、「舞台改め」といい、懐紙 5 枚を芝にのせ、興福寺の僧兵が片足の重みをかけて 5 枚共、濡れたら延期とされた。現在は 5 月に行なわれ、主として金春流によって演じられる。「薪御能」と呼ぶのは、この興福寺の能のみ。

全国の薪能ブームの火付け役は、「火入式」を初めて実施した京都平安神宮の薪能。
東京オリンピックの点火式からヒントを得た。

「長良川薪能」は、1986 年（昭和 61 年）岐阜 J.C の創立 35 周年記念事業として発足。巖島神社の御神能を長良川に写すイメージで企画した。今年 2011 年で第 25 回を迎える。第 1 回から観世流が担ってきたが、昨年のみ、金剛流であった。今年の演目は、観世流による「鞍馬天狗」が予定されている。

※全国「薪能」スポット

| | |
|---------------|---------------|
| 興福寺（奈良県） | 5 月 11 日 12 日 |
| 巖島神社（広島県廿日市市） | 4 月 16 日～18 日 |
| 西本願寺（京都市） | 5 月 21 日 |
| 増上寺（東京都） | 5 月最終土曜日 |
| 中尊寺（岩手県西磐井郡） | 8 月 |
| 大阪城（大阪市） | 7 月末～8 月末 |
| 鎌倉宮（鎌倉市） | 10 月 |
| 平安神宮（京都市） | 6 月 |

■能楽五流派

□上掛り：謡を重視 舞や所作はおとなしい 内面の写実

「観世流」…五流派最大の流派。謡は宝生流と類似点が多いが、女性的で高い調子。発声も柔らか。

「宝生流」…「謡宝生」の名有り。5代綱吉、11代家斉の庇護で隆盛を極めた。

歴代加賀藩主の庇護を受けた。

□下掛り：舞・所作を重視、強調

「金春流」…素朴で雅やか。秀吉に愛された。中興の祖は金春禅竹。最も由緒の古い流派

「金剛流」…「舞金剛」の名有り。金剛流宗家のみが京都在住。

奈良と京都の文化が同居した豪放さと雅やかさ。

「喜多流」…江戸時代に成立。秀忠、家光の後援により創立。流祖北七太夫は秀吉の小姓。

それ故、武士道精神が反映して、謡も舞も剛健で颯爽としている。質実剛健な能。

■『翁』付き五番立

能の演目の5つの分類

「神・男・女・狂・鬼」

「神」神が出現する能で、「脇能」とも呼ぶ

「男」武将の戦いを描く「修羅能」

「女」鬘かつらをつける女性が主人公の「鬘物」

「狂」狂乱や嫉妬を描いた多彩な能「雑能」

「鬼」鬼神が登場「切能」

■面（おもて）について

各流儀の思想や美学を象徴する存在。主として6種類に分けられるが、特に鬘物（かづらもの）とよばれる能では、流儀によってかける女面が異なる。

宝生流……………「増女（ぞうおんな）」落ち着いた雰囲気きずなの面。

観世流……………「若女」像女より色気がある。

金春・喜多流…「小面」清純で若々しい。秀吉が「雪」「月」「花」の小面を与えた。

金剛流……………「孫次郎」華やかな面持ち。三井家さんせいけがその多くを所有している。

生きている男性の役は、原則として面を用いず、女と老人の役は面をつける。

神・鬼・幽霊といった霊体の役はすべて面をつける。

■田楽とは

農村から芸能で早くから専門の芸人が生まれていた。鎌倉幕府の執権、北条高時が溺愛していたと、「太平記」に記されている。

因みに「豆腐田楽」の語源は、田楽の芸の一つに、棒に乗って行なう芸があり、その様子が串に刺した豆腐に似ていることから、その語源となった。